第１節　環境啓発事業

１　環境学習会の開催

小瀬川干潟観察会

▼目的

干潟観察会を開催することにより、市民等に小瀬川河口の干潟に生息する生きものを知ってもらうとともに、その生態等を学んでもらうことで、環境の保全に関する認識及び関心並びに本市の環境について理解を深めることを目的に実施しました。

▼主催

大竹市市民生活部環境整備課

▼実施期日

令和６年７月 20 日（土）
午後２時 00 分 ～ 午後５時 00 分

▼実施場所

大竹市東栄「小瀬川河口の干潟」及び「大竹市リサイクルセンター管理棟内会議室」

▼参加人数

大人・21 名、子ども・22 名
合計・15 組、43 名

▼実施内容

生きものの採集

講師によるアドバイスを受けながら生きものを捕まえました。

分類作業

参考資料を見ながら、捕まえた生きものを分類しました。

解説

捕まえた生きものの名前や生態等を講師が解説しました。

実験

干潟に生息する生きものを用いた実験を行いました。

▼成果

観察会を通じて小瀬川河口の環境を実際に見てもらうことで、大竹市の環境へのイメージが向上しました。

また、生きものを探して捕まえる体験を通じて、いろいろな生きものが生きていくためには多様な環境が必要であることを実感してもらい、環境保全に対する関心が深まりました。

川の生きもの観察会

▼目的

川の生きもの観察会を開催することにより、市民等に、川に多くの生きものが生息することを知ってもらうとともに、その生態を学んでもらうことで、本市の自然環境への理解及び環境保全への関心を深めることを目的として実施しました。

▼主催

大竹市市民生活部環境整備課

▼実施期日

令和６年９月 28 日（土）
午後２時 00 分 ～ 午後５時 00 分

▼実施場所

大竹市栗谷町小栗林「栗谷小学校」及び「玖島川親水公園周辺」

▼参加人数

大人・16 名、子ども・20 名
合計・11 組、36 名

▼実施内容

生きものの採集

講師によるアドバイスを受けながら生きものを捕まえました。

分類作業

参考資料を見ながら、捕まえた生きものを分類しました。

解説ほか

捕まえた生きものの名前や生態等を講師が解説しました。

また、捕まえた生きものの種類から、川の水のきれいさの判定を行いました。

▼成果

本市の河川には、絶滅危惧種などの希少な種を含む多種多様な生きものが多く生息しており、きれいな水であることを知ってもらうこと

で、大竹市の環境へのイメージが向上しました。

２　広報活動

▼概要

本市の環境の状況を知ってもらうため、環境測定数値や環境啓発事業の紹介記事を市広報等に掲載しました。

▼実施内容

①市広報による啓発

②市ホームページによる啓発

第２節　環境保全活動の連携・参加

ひろしま環境の日

▼概要

国は、６月５日を「環境の日」、６月を「環境月間」と定めています。また、県は、地球温暖化防止のため、一人ひとりの環境意識を高め、行動してもらうことを目的に、毎月第１土曜日を「ひろしま環境の日」と定めています。

本市では、これを踏まえ、環境保全への取組を啓発するために、広島県が定めた「ひろしま環境の日における一斉行動」を「広報おおたけ」に掲載しました。

▼実施期日

毎月第１土曜日

▼対象

市民

工場周辺等一斉清掃活動

▼概要

環境意識高揚のため、事業者と連携して工場周辺地区の一斉清掃を行いました。

▼主催

大竹市市民生活部環境整備課

▼実施期日

令和６年６月６日（木）

午後２時 00 分 ～ 午後４時 00 分

▼実施場所

明治新開地区、御幸地区、東栄地区工場周辺及び港湾施設周辺

▼参加団体

株式会社ダイセル、三井・ダウ ポリケミカル株式会社、三井化学株式会社、三菱ケミカル株式会社、日本製紙株式会社、戸田工業株式会社、中国塗料株式会社、大竹明新化学株式会社、日本通運株式会社、山九株式会社、川崎運輸機工株式会社、大竹市上下水道局下水処理場、大竹市リサイクルセンター

ライトダウンキャンペーン

▼概要

地球温暖化防止及び省エネへの取組の一環として、市職員に対しノー残業デーの取組を実施し、市庁舎等のライトダウンを行いました。

▼実施期日

令和６年６月 21 日（金）夏至の日

令和６年７月７日（日）七夕

▼実施場所

市庁舎等の公共施設

おおたけクリーンキャンペーン

▼概要

「きれいで快適なまちづくり」を目的とし、自治会等が個別に行っていた地域清掃を、９月の第４日曜日に統一して行うことで、住民等の清掃意識を高めました。

▼共催

大竹市公衆衛生推進協議会

大竹市市民生活部環境整備課

▼実施期日

令和６年９月 22 日（日）

▼実施場所

大竹市全域